

シンポジウム「コロナ禍における図書館パート2」

報告1 「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス報告書」ができるまで

今野創祐（京都大学工学研究科吉田建築系図書室）

要旨：京都大学図書館機構は、2020年8月から9月にかけて、機構内の各図書館・室に対し、新型コロナウイルス感染症対応状況の調査を行い、また、その調査結果をもとに意見交換会を行った。さらに、その内容をとりまとめ、報告書とし、リポジトリにて公開した。その報告書の筆者の一員として、報告書の作成・公開に至る経緯を振り返る。

1. はじめに

当報告は、発表者が、執筆者の一人となった「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス報告書」¹（以下、当報告では単に「報告書」とする）の作成の経緯を振り返る実践報告である。報告書自体は、脚注1に示したURL（京都大学の学術情報リポジトリ）において全文が公開されているため、その具体的な調査結果の紹介は最低限にとどめ、報告書作成に至った経緯について紹介することが当報告の主眼となる。なお、本発表は、あくまでも発表者個人の観点から見た実践報告であり、京都大学という組織を代表した発表ではない。

2020年8月から9月にかけて、京都大学図書館機構内の各図書館・室に対し新型コロナウイルス感染症対応状況の調査を行い、また、その調査結果をもとに意見交換会を行い、さらに、その内容をとりまとめる形で報告書が作成され、京都大学の学術情報リポジトリにおいて最終的に公開されることとなった。

当報告では、まず、京都大学図書館機構および京都大学の図書系事務職員の一部が在籍していた部会という部局横断型組織等の概要について説明する。さらに、上記の調査、意見交換会、報告書作成、リポジトリへのアップについて時系列順に説明する。

なお、発表者は、上記の通り、報告書の執筆者の一員ではあるが、報告書全体のとりまとめを担うなど、中心的な役割を担ったわけではないため、当報告は、あくまでも一人の執筆者の視点から見た、作成の経緯の報告となる。

2. 京都大学図書館機構および部会の概要

京都大学には、学内にある約40の図書館・室の集合体として京都大学図書館機構（以下、図書館機構とする）が存在する。この図書館機構の業務内容は、「京都大学図書館機構規程」によると以下の通りとなっている。

「第2条 機構は、附属図書館及び部局図書館等（部局の図書館又は図書室等をいう。以下同じ。）が連携して、本学の図書館資源（図書、学術情報データベース、施設その他の図書館資源をいう。以下同じ。）の合理的かつ効果的な収集、運用及び整備並びに

学外の学術情報資源の効率的な利用サービスの提供体制を整備することを目的として、これを各部局図書館等の独自性を維持しつつ、附属図書館及び部局図書館等の間において総合的かつ合理的な調整を経た方策に基づいて達成するためのネットワーク型の全学組織として、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の図書館資源の収集、運用及び整備並びに学外の学術情報資源の利用サービスの提供体制の整備に関し必要な事項
- (2) 附属図書館及び部局図書館等の間における連携その他に関し必要な調整
- (3) 図書室その他図書に係る組織を有しない部局に対する支援」²

この図書館機構は、各図書館・室に対して指示を出すようなものではなく、図書館機構に属する図書館・室全体に関わる内容についての業務を行うものである。図書館機構に所属する図書館・室の間には上下関係は存在せず、対等の関係となっている。各図書館・室は一体となって京都大学の研究・教育活動の支援にあたっている。

また、図書館機構には図書館業務改善推進会議という組織が存在し、その中に部会と呼ばれる複数のワーキンググループが存在していた³。京都大学の図書系職員は、基本的には学内に存在する図書館・室、共通事務部のいずれかにおいて勤務し、それら図書館・室が所属している部局に所属する職員として勤務しているが、部会におけるメンバーは、そうした職員の中から一部、選出された職員で構成されており、部局横断型組織となっている。したがって、京大の図書系職員の一部は、マトリクス組織で勤務していると言える。

部会は7つあるが、これら部会の中に、学術情報リテラシー、レファレンスに関することを検討するリテラシー・レファレンス部会、図書館サービス（ILL、デリバリー、サービス拠点）、閲覧環境、資料保存環境に関することを検討する図書館サービス部会、発注、検収、目録作成及び資産管理に関することを検討する情報資源管理部会が存在し、これらの部会のメンバー全員によって、報告書を作成した新型コロナウイルス感染症対応状況調査チームメンバーが結成された。上記の3部会のメンバーが選ばれた理由は、利用者へのリテラシー支援が困難になったこと、来館サービスが困難になったこと、現物を伴う図書の受け入れ、教員との連絡が困難になったことが挙げられる。

ただし、当初は各部会から割り振られた一部のメンバーのみによって、次項以降で紹介する調査の実務面を担当していたが、報告書の作成自体は、上記3部会のメンバー全員の共同作業によってなされた⁴。発表者は2020年度、リテラシー・レファレンス部会に所属していた。

3. 新型コロナウイルス感染症対応状況の調査と意見交換会

以下、報告書の4ページから7ページにかけての記述を一部もとにしつつ、新型コロナウイルス感染症対応状況の調査に至る経緯を振り返る。

京都大学においても、2020年4月以降、コロナ禍の中で、活動制限のガイドラインが示され、授業の休講やオンライン化、教職員の在宅勤務（テレワーク）等の措置が講じられ

た。また、学内の図書館・室も、臨時閉館・閉室、サービスの縮小を余儀なくされた。

一方で、蔵書構築においては、電子ブックの緊急整備が実施され、全学教員に対し「今年度の全学共通科目の講義に使用する予定の電子ブック」「学部学生の自宅学習時に有用と思われる学習用の電子ブック」の購入希望を募ったうえで、主に日本語電子ブックの大規模な整備を進め、来館しなくとも必要な資料が利用できることを目指し学習環境の向上に努めた。一方、冊子体資料の受入作業については、資料現物を用いた作業が必須となるため、交代勤務の導入に伴い、職員間での分担や、在宅勤務時に可能な作業を切り分けて実施するなどの対策を強いられた。

このような状況下で、第1回総括部会⁵にて今年度の活動計画が策定され、「新型コロナウイルス感染症防止対策から見えたこれからの図書館サービス」をテーマとする図書系職員による意見交換会を7月と9月の2回にわたって開催することが決定された。前述のとおり、3つの部会がまずはコロナ対応における学内図書館・室の事例収集に着手すべく、暫定的に「図書館機構コロナ対応状況調査チーム」として準備を進めることとなった⁶。7月8日に第1回目のリテラシー・レファレンス部会が開催され、7月30日に開催される第1回意見交換会に向けて、9の図書館・室（共通事務部図書担当含む）からコロナ対応の先行事例を調査したサンプリング結果を提示し、議論の端緒とすることとなった。これに向けた具体的な、第1回意見交換会開催までの業務の流れについては、表1「報告書作成にかかわる時系列の年表」をご覧いただきたい。サンプルの対象となった9の図書館・室は、部会員が所属している図書館・室が中心となった。

こうした過程の中で、例えば、「昨年度は提供していたが、京都に緊急事態宣言が発令されていた時期に、休止したサービスはありますか（概ね4月16日から5月21日）

（複数回答可）」といった質問では、「元々提供していないサービスや、ない設備について記載方法がわからない」といった問題点が回答する上で発生することなどについて気づきを得られ、アンケート調査における質問項目の見直しがおこなわれた。また、回答の形式についても、サンプル調査では、Excelの調査票にて回答してもらう形式であったが、本調査ではGoogleフォームを使用することとなった。

こうして得られた結果をもとに、第1回意見交換会においては、回答の生データ、テーマ・意見交換会の主旨・今後のタイムスケジュール等について書かれたレジュメ⁷、「感染拡大予防マニュアル-令和2年度前期授業の実施における配慮について-（第1版）」⁸および2020（令和2）年5月26日更新版の「図書館における新型コロナウイルス感染 拡大予防ガイドライン」⁹という2種の参考資料を配布した上で、意見の交換が行われた。しかし、この意見交換会では十分な時間がとれなかったため、8月4日を締め切りとして、メールにて、業務改善推進会議関係者に対し、新型コロナウイルス感染症対応状況調査チームへ向けて、アンケートの調査項目・内容や、回答方法（選択肢の立て方など）についての意見を寄せるよう依頼した。

その後、上記のサンプル調査および意見交換会、その後のメールでの意見募集で得られ

た知見を踏まえ、間際まで修正を重ね、8月19日に、全学の図書館・室、共通事務部図書担当に対し、9月7日を締め切りとして、「新型コロナウイルス感染症対応状況調査」調査をウェブフォーム（調査票4種）による回答方式で実施した。アンケートの開始後も、問い合わせに応じて、補足説明をおこなう、といった対応をおこなった。また、9月1日にリマインドメールを送信し、記述例通りでない回答をしている各図書館・室・事務部に対しては、9月3日から11日にかけて、メール・電話等で記述内容の修正を依頼した。

短期間の回答期間であったにも関わらず、全ての対象図書館・室および共通事務部図書担当から回答があり、2020年度前期のコロナ状況下における図書館・室の実態を把握する基礎データを収集することができた。

9月28日におこなわれた第2回意見交換会には図書系職員62名の参加があり、図書館機構コロナ対応状況調査チーム担当3部会から、調査結果概要と今後の対応への提言が示され、意見交換が行われた¹⁰。アンケート結果が大部だったため、報告のポイントやキーになる意見・コメント等について抜き出したパワーポイント資料を作成した。

4. 報告書の作成

その後、10月20日に第2回目のリテラシー・レファレンス部会が開催され、3部会で分担して報告書を作成することが確認された。リテラシー・レファレンス部会の作成分担箇所については、部会員全員で作業を分担することとなり、報告内容の文書作成およびデータの修正や成形を手分けして担当することとなった（発表者は文書作成を担当した）。

以下、より詳細な業務の進め方を報告する。Excelのスプレッドシートによって、報告書の文書作成作業の分担表を作成し、担当者を記載した。各部会の主査やずっと調査に関わっていたメンバーは個人での分担とし、部会が担当となっている部分については、各部会内で業務を割り振った。作業が終了したら各人が、進捗状況を示すセルをグレーに塗りつぶし次のステップに進むという流れで作業を進めた。分担に基づき、直接Googleドキュメントを編集した。欄外のコメントも参照し、また、何かあれば、コメントを残した。この作業に本格的に着手したのは11月6日だったが、11月13日を目途に作業を進めた。また、11月17日には、人材育成部会（職員の人材育成に関することを検討）、情報処理部会（情報処理システムに関することを検討）、広報部会（京都大学図書館機構報「静脩」、図書館機構ウェブサイト及び図書館機構概要等の図書館機構の広報に関することを検討）の3部会に対しても確認を依頼し、各部会の観点から追記、補足、新たな考察を加えることを依頼した（11月24日締め切り）。以上の意見を踏まえて、11月25日以降、11月27日を締め切りとして、報告書を作成した3部会内で、最終的な内容の確認をおこなった。その後、12月21日時点で、ひとまず、表記ゆれのチェック、体裁の調整を終えた。

5. 学術情報リポジトリへの掲載

その後、本報告書を、年明け以降、外部にも公開することとなった。そのため、12月

22日の時点で、全学図書館・室に対し、12月25日を目標に、学外公開に当たり、誤字脱字、表現に問題がないかなどの確認を依頼した。回答に時間を必要とした図書館・室もあったため、最終的な内容の確定は年明けとなることとなった。その後も微修正が加えられ、2021年1月12日に報告書の内容が確定した。1月14日に学術情報リポジトリへの掲載を依頼し、同日、掲載された。翌日、全学の図書系職員に対する、学術情報リポジトリへの掲載の報告がメールでなされ、図書館機構のニュースでも広報がおこなわれた¹¹。

同日（1月15日）、カレントアウェアネス-Rにおいてもこのことについて取り上げられた¹²。

6. 報告書作成を振り返って

前述のとおり、発表者は報告書の著者の一員ではあるものの、決して中心的な役割を担ったわけではなく、このたびの報告書作成について、十分な総括ができる立場ではない。しかしながら、報告書作成を振り返ると、例えば京都大学のような、学内に多くの図書館・室が存在し、なおかつそれらの図書館・室が一定程度自律的な業務上の判断をおこなっている組織において、当報告で紹介した一連の過程が参考になるのではないかと思われる。また、大学図書館に限らず、公共図書館や学校図書館といった他館種であっても、一定数の自律した判断をおこなう図書館が、一方でネットワークを形成している場合など、当報告で紹介した、協働した報告書の作成過程が参考になるのではないかと思われる。

より具体的には、担当者（担当セクション）の確定（役割の分担）、サンプル調査、それを受けての意見交換、本調査、それを受けての意見交換、報告書の作成、外部への公開、一般への広報といった一連の流れは、他の同様の組織体においても、応用して生かせる業務フローではないかと考えられる。

一方で、当初、学内共有用の資料を作成しているものという認識があった中で、後に学外への公開を予定するものとなったため、学外の読者にも分かりやすい表現とする必要が生じた。報告書の公開の範囲をその組織体の内部のみとするか、外部にも公開するかは、報告書の内容によって異なる組織体の判断がありうるだろうとは思いますが、アンケート調査や意見交換の際、あらかじめ、調査対象となる図書館・室に対しては、事前に、なるべく早い段階で、そうした公開範囲については、明示することが望ましいと感じた。

表1：報告書作成にかかわる時系列の年表

2020年6月22日	第1回総括部会開催。「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス」をテーマとする図書系職員による意見交換会を7月と9月の2回にわたって開催することが決定。
7月8日	リテラシー・レファレンス部会第1回部会開催
7月14日	リテラシー・レファレンス部会主査から人材育成、広報、情報処

	理の3部会に話題提供の前振り
7月15日	各部会から質問事項持ち寄り（各主査と担当で打ち合わせ）
7月16日	質問事項をとりまとめ、3部会主査から担当課長に確認依頼。
7月17日	3部会主査から各部会員に向けてサンプル調査回答依頼（7月21日が回答期限）
7月21日	サンプル調査回答集計
7月27日	第1回意見交換会で使用する資料を提出
7月30日	第1回意見交換会開催
8月4日	業務改善推進会議関係者に対する、アンケートの調査項目・内容や回答方法についての意見募集締め切り
8月19日	全学の図書館・室、共通事務部図書担当に対し「新型コロナウイルス感染症対応状況調査」調査（9月7日締め切り。9月1日にリマインドメール送信。9月3日から11日にかけて記述内容修正依頼）
9月23日	第2回意見交換会で使用する資料を提出
9月28日	第2回意見交換会開催
10月20日	リテラシー・レファレンス部会第2回部会開催
11月6日	報告書作成作業開始（11月13日まで）
11月17日	人材育成、情報処理、広報の3部会に報告書の内容の確認依頼（11月24日締め切り）
11月25日	3部会による内容の最終確認（11月27日締め切り）
12月22日	全学図書館・室に対し、学外公開に当たっての内容確認依頼（12月25日締め切り）
2021年1月12日	報告書の内容確定
1月14日	学術情報リポジトリへの掲載依頼、学術情報リポジトリへの掲載。
1月15日	全学の図書系職員に対する学術情報リポジトリへの掲載報告、図書館機構のニュースでの広報開始、カレントアウェアネス-Rでの紹介

謝辞

本稿の内容についてご確認いただいた、京都大学附属図書館の中田理映子氏に感謝いたします。

脚注

¹ 図書館機構業務改善推進会議新型コロナウイルス感染症対応状況調査チーム「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス報告書」
<<http://hdl.handle.net/2433/261000>> [引用日:2022-02-05]

² 「京都大学図書館機構規定」 https://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00000969.html [引用日:2022-02-05]

³ 2020年度末を以てこの部会という枠組みはなくなり、現在は、その枠組みを引き継いだ、別のワーキンググループの体制が成立している。

⁴ 2020年8月14日以降、リテラシー・レファレンス部会のメンバー全員が、コロナ状況調査のメーリングリストに加入し、リテラシー・レファレンス部会のメンバー内での情報共有が進むこととなる。なお、発表者は、当初割り振られた実務面を担当するメンバーの一員でもなかった。

⁵ 業務改善推進会議のもとに設置された7つの作業部会の一つ。残る6部会の主査および部課長、課長補佐の計15名で構成。

⁶ リテラシー・レファレンス部会が主担当となり、図書館サービス部会、情報資源管理部会が副担当となった。

⁷ このレジュメは前掲1の「附録 参考データ集」の中に収められている。

⁸ 京都大学危機対策本部「感染拡大予防マニュアル-令和2年度前期授業の実施における配慮について - (第1版)」<<http://statphys.scphys.kyoto-u.ac.jp/covid/wp-content/uploads/2020/07/%E6%84%9F%E6%9F%93%E6%8B%A1%E5%A4%A7%E4%BA%88%E9%98%B2%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf>> [引用日:2022-02-05]

⁹ 日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」<http://www.jla.or.jp/home/news_list/tabid/83/Default.aspx?itemid=6009> [引用日:2022-02-05] 現在、上記サイトにアップされているガイドラインは、2021.10.19更新版である。

¹⁰ 第2回意見交換会のレジュメも前掲1の「附録 参考データ集」の中に収められている。

¹¹ 京都大学図書館機構「【図書館機構】「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス報告書」の公開について」<<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1388244>> [引用日:2022-02-05]

¹² 国立国会図書館カレントアウェアネス・ポータル「京都大学図書館機構、「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス報告書」を公開」<<https://current.ndl.go.jp/node/43004>> [引用日:2022-02-05]